

復興応援団だより

2015.8/N039
発行元：
一般社団法人
復興応援団
代表：佐野哲史
広報チーム
0226-25-9897

南三陸探検

ふだんは仙台近辺の大学に通う学生スタッフが、月に一度は実際に南三陸に足を運び、常に最新の情報を把握することを目的とした「南三陸探検」。

7月5日に行った今回は、南三陸・歌津で「震災前後の景色の変化が見られる場所」を探するため、震災前の街の姿を事前に調べた上で、標高の

高い場所を巡りました。歌津は南三陸の中でも海の近くにあるので、海風が心地よかったです。

崖を降りて見晴らしのいい場所に出ることもあれば、時には背の高い草を掻き分けて、何も無いこともあります。しかしその地を踏みしめてわかる自然の良さを感じて、今まで知らなかった美しい景色を発見できた気がします。南三陸にボランティアに来てくだ



↑高台から復旧工事の様子を調査中

さる方に、「南三陸のいま」をしっかりと伝えたいように、今後も探検を続けていきます。

(東北薬科大・塩原えり花)

東北大学震災ボランティア募集イベント

6月29日、7月1日、2日の三日間、東北大学で震災ボランティアスタートアップフェアが開催されました。震災関連のボランティアを行なっている様々な団体が出展し、震災ボランティアに関心を持つ学生向けに活動の説明を行ないました。

どの団体のコーナーにも、熱心に話を聞く学生とそれに誠意をもって説

明する担当者の姿が見られました。復興応援団のコーナーには、4人の一年生が説明を聞きに来てくれました。南三陸町や、多賀城の仮設住宅の現状について話すと、真剣な様子で聞き入ってくれたことが印象的でした。

震災から4年がたった今もなお、こうして被災地の復興を考える学生が来てくれるということ



↑学生スタッフが復興応援団の活動を説明している様子

実感し、とても心強い思いでした。

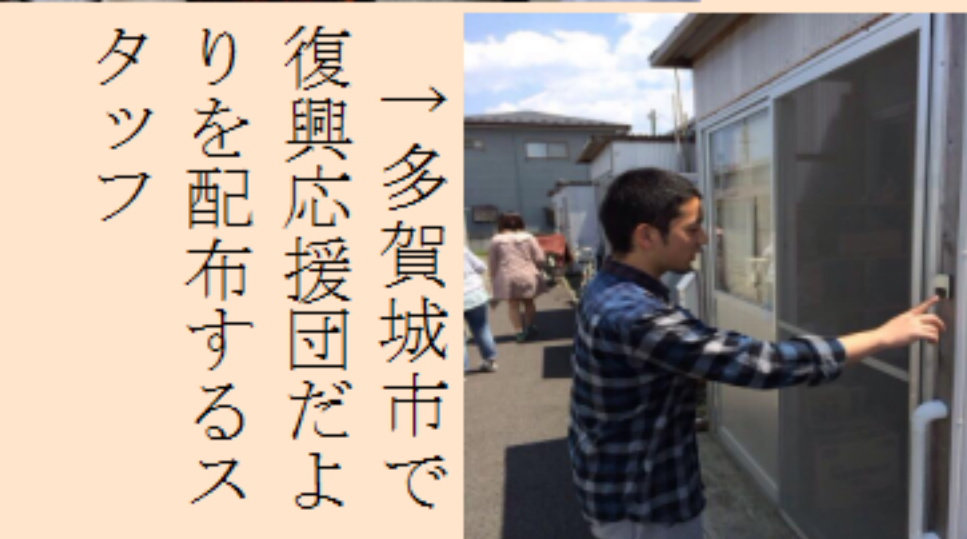
(東北大・岩館祐実)

復興応援団とは

私たちは「地元の方が主役の復興」を目指し、主に南三陸町と多賀城市で活動しています。南三陸町では、地元の復興の担い手の元に全国からボランティアを派遣。復興のお手伝いを通じて南三陸の魅力に触れてもらい、中長期的に復興を支える「ファシリテーター」になってもらう取り組みをしています。多賀城市では、2012年4月より「復興応援団だより」を仮設住宅全戸にお届けするなど、住民のみなさんが中心となったコミュニケーション



←南三陸町で震災の様子を学ぶ参加者



→多賀城市で復興応援団だよりを配布するスタッフ

リクルートグループでは会社の現在から将来を担う人材の方々に、「寺子屋・東北トリップ」と題した、復興の現場での学びの機会を提供しています。今回は40名を超える方が参加され、復興応援団は現地視察のガイドを担当しました。震災遺構を巡る中で、初めてお越しの方にとっては津波の爪痕に大きな衝撃を受けました。また、以前にお越しの方にとっても、未だに残る爪痕の大きさや年月を経たの変貌ぶりに驚かれたこ



↑高台から南三陸町志津川地区の様子を見つめる参加者

リクルートグループでは会社の現在から将来を担う人材の方々に、「寺子屋・東北トリップ」と題した、復興の現場での学びの機会を提供しています。今回は40名を超える方が参加され、復興応援団は現地視察のガイドを担当しました。震災遺構を巡る中で、初めてお越しの方にとっては津波の爪痕に大きな衝撃を受けました。また、以前にお越しの方にとっても、未だに残る爪痕の大きさや年月を経たの変貌ぶりに驚かれたこ

とと思います。2時間余りという短い時間で、はありましたが、今回の被災地訪問および現地視察を機に、東北に興味を持ち、東北の商品を購入したり再訪したりしていただけならこれほど嬉しいことはないと思います。

(東北大・加藤諒一)